

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(第2)2016年版、名古屋市建築物環境性能評価用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三ツ矢製菓株式会社 増築工事	階数	地下0階地上2F
建設地	中川区富川町4丁目1-2、1-3、1-4、1-5、1-6、1-7、1-8	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年6月7日
敷地面積	6,867 m ²	作成者	
建築面積	1,401 m ²	確認日	2021年6月7日
延床面積	2,639 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE 0.9

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 ●工業地域のため周りに工場や倉庫が建ち並ぶ地域であるが、東側には住宅地も広がっており施設の使用勝手と住宅地への騒音や臭気、景観等に対する配慮を両立することを目指した。		その他
Q1 室内環境 ●オゾン室は、オゾンによる室温上昇で他の居室への空調負荷増加が懸念されるため断熱パネル壁にて区画した●防虫対策として、建築基準法及び消防法に適合しつつ、窓を極力小さくした●VOC等に関する材料はSDSにより安全性を事前確認する計画とした。	Q2 サービス性能 ●菓子工場において重要な作業性と清掃性、機密性の両立を目指した。具体的には各製造機械の効率的な配置、ホリ溜りができないように建具類の水平部分に勾配設置、各配管の貫通部等は「シリク」材で塞ぐ等の計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) ●防虫対策として、砂利敷をアスファルト舗装仕上に改修する計画とした。また、水溜まり解消のためオーバーレイ補修も行う計画とした●敷地内でも緑に触れられるように、駐車場を緑化駐車場とした
LR1 エネルギー ●工場立地法に従い敷地内に可能な限り緑地帯を設け、CO ₂ 削減に配慮した。BEI: 0.67	LR2 資源・マテリアル ●建物の外装材にはリサイクルを考慮し、窯業系サイディングを採用した。●工事中に排出されるゴミは金属、プラスチック等それぞれ分別する計画とした。●トイレなどの水回りは自動水栓、センサー一体型小便器を使用。	LR3 敷地外環境 ●騒音の懸念される出荷口や設備機器の配置は敷地側や屋上に設ける計画とした●周囲への景観に配慮し、建物周囲に奥行き約1mの緑地帯を設置した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

三ツ矢製菓株式会社 増築工事

■使用評価マニュアル:



CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.4	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.06	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.3	
2. 自然共生	評価点 = 1.9	
3. 循環型社会	評価点 = 2.8	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。